

第 31 回 ミャンマー スタディーツアー 報告書

田中さん

2019年3月22日（金）、桜の開花宣言が出始めた日本を飛び立ち、夏期に入ったばかりの炎暑のヤンゴン空港に降り立つ。成田ではトランジット手続きをしたため出られなくなってしまった近藤会長に代わり、空港に到着していたお土産の段ボール3箱の積み込み手続きを代わってしなければならないというハプニングもあったが、なんとか全員無事ヤンゴン到着。

ガイドのナイス ミャンマー トラベルのゾーさんの案内で、一路「結団式」の行われる夕食会場「BURMA BISTRO」へ。会場で今回参加のメンバー：近藤会長、和田さん、酒井さん、中島さん親子、私（田中）の6名の自己紹介と、会場に駆け付けて下さった柴田さん親子、竹花さん、ナイスミャンマーのナンヤミンさんの紹介の後、会食中にパナソニックの現地総代理店のウインミン会長が部下の方と合流、会話に花が咲きました。

会食後は今夜の宿泊先：サミット パークビュー ホテルへ。

2日目（3月23日）はヤンゴン市内のGSS日本語学校へ。社長のニートウェさんの奥様や社員の高橋七海さんの案内で授業風景を見学、参加者で一番若い中島一晝君が生徒さんからの質問に答えるという場面もあった。

その後、アメトワの経営するピーナッツオイル工場へ。この工場長は以前新橋のすっぽん料理屋で働いていたとのこと。今やミャンマーNo.1のピーナッツオイル メーカーとなっている模様。容器のペットボトル制作からの一貫工程を見学。

昼食はホットポット鍋。評判上々。

昼食の後はボージョ アウンサン マーケットへ。その後ストランドホテルでハイティ体験の後、シェンダゴン パゴダへ。

夕食会場の「Sabai@DMZ」に富田さんご夫妻が合流。ご夫妻でミャンマー移住を決断された経緯等を拝聴。今夜も連泊のサミット パークビュー ホテルへ。

3日目（3月24日）いよいよメインイベント。早朝にホテルをチェックアウトし、ヤンゴン空港からヘーホーへ。専用車で今年の寄贈先の保育園へ向かう。だいぶ舗装されていたがそれでも2時間の山道はきつく、土ぼこりがすごい。車中で若頭（No.2）のコン・チー・ウーさんから、今までご尽力いただいていたセアジイ長老が体調を崩され、今は次の長老が会場で待っているとの話を聞く。

現地到着、村人が総出（200～300人はいた）で学校の入口の門から列を作って待っていてくれて、歓迎の音楽が流れていた。入口で鯉のぼり等のお土産を降ろすのに手間取ったが、その間も演奏を続けていてくれたことに恐縮する。

和田さんとガイドのゾーさんが「鯉のぼり」の準備をしている間、我々は果物等で歓待を受け、新しい長老と通訳なしで苦戦しながら歓談する。

その後全員で新しい校舎を見学、従来のものより広いとのこと。後で床にカーペット等を

敷いた写真を送ってくれるよう依頼して外の式典会場へ移動。幼稚園児と思われる子供の歓迎の踊り（真室川音頭？）から始まり、小学校男児・女児のミャンマーの踊りのあと、来賓等の挨拶、近藤会長からの話があり、礼状や記念品が贈呈され、最後にガイドのゾーさんが紙芝居「ももたろう」をミャンマー語で披露したのち、食事に移動。

食事の際、次回の寄贈予定先のピンムーンの村人3人からプレゼンテーションを受けるが、要領をえないため終了後現地視察。とんでもない山道を土ぼこりをたてて車で移動する。たしかに幼稚園の建物はボロボロで建て替えたほうが良いとは思ったが、どこに建てるか等まだ決まっていない様子であったためいったん保留、後で計画書を送ってもらうことにする。

この後、車と船で、今夜の宿泊先であるインレー湖の湖上ホテルに移動。次回寄贈予定先の視察が入ってしまったため時間がおしてしまい、船に乗るときにはすでに夕方6時を回っていた。3人と4人の2組に別れてエンジンの付いた小船でホテルに向かったが、結構時間がかかり（1時間弱）、途中宵闇せまるインレー湖で夜空に輝く星々を眺めていた時は、はるか太古から続いてきたと思われる風景に、時代感覚がまったくなくなっていた。

4日目（3月25日）、宿泊先のインター フローティング ホテルから船で、まず近くで開かれていたナムパンの「五日市」に向かう。果物はもとより農機具、果ては家庭薬まで売っていた。売り手も自分の持ってきたものを午前中に売ってしまい、必要なものをまたここで買って帰るという。岸边に豚が1頭、ウリをおいしそうに食べていたが、さすがにこれは売り物ではなかったよう。

次に船はインポーコンの織物工場へ。ハスの茎から繊維を取り、織物にするという工程を見学、私も100%蓮の繊維でできた布を購入、仏壇に供えることにした。

湖上レストラン「GOLDEN KITE」でイタリア料理の昼食の後、以前寄付していたゴミ焼却炉が稼働しているか確認のため、マインタックに立ち寄る。途中、インレー湖の浮島農園を見るが、水路にはホテイアオイがかなり繁茂していて、船が行きかうのもやっとな場所もあった。

マインタックの棧橋からの途中の辻でたむろしていた若者に、ゴミの回収状況を尋ねる。ゴミ集めはしているという。確かに道に捨てられているゴミは、以前と違って格段に減っているらしい。辻を回ってすぐに野焼きの煙が目に入ってきた。近くにいた男性（小学校の事務員らしい）から、「毎週土曜日には小学生とゴミ集めをして、焼却炉で焼いている」との話を聞く。

このあと船でニューンシュエに戻り、ヘーホー空港からマンダレーに向かう。夕食はマンダレー旧王宮近くの「ゴールドンダック」で中華料理。隣のテーブルにはなぜかこんな時間に食事するはずもないお坊さんがいた（外国の僧侶らしい）。夕食後は今夜の宿泊先である「ホテル ヤダナーボン マンダレー」へ。

5日目（3月26日）はワチェの吉岡先生を訪ねる。まずザガインヒルにある「戦没者慰霊塔」を参拝し、全員で般若心経を唱える。その後ワチェの病院に行き、森先生の全体説明・案

内の後、近くのお店で、手術の合間の吉岡先生にお話を聞く。中島一咩君からの質問に丁寧に答えてくださり、最後に気さくに写真に入ってくださいました。この時の9人分の紅茶代を、隣のテーブルにいた入院中の乳がんの患者さんの家族の方が払ってくださいましたのに恐縮。吉岡先生から「これも功德を積むということですから」という言葉が非常に重く感じられた。

ザガインヒルで昼食の後、ピンウールイン（メイミョー）に向かう。途中、ドーピン孤児院でティーシャツ:段ボール3箱を寄贈。以前寄贈したPCが活用されていないことを聞き、補充・修理の費用や講師の手配について、後日連絡してくれるよう同席してくれたウインミンさんの知人に依頼。今後の打ち合わせを近くの食堂でした後、夕食会場の「レイクフロント・フィール」へ。カンドウ湖に面していることもあるが、涼しいというよりむしろ寒いくらい。さすがミャンマーの軽井沢。その後、今夜の宿泊先の「オーリウム リゾート」へ。全室コテージで、ブドウ園もあるとんでもないホテルだった。聞けば室内プール付きの部屋もあるらしい。

6日目(3月27日) 中島さん親子にとっては最終日。ホテルを出発してまず牟田口中将の自宅あとに向かう。ゾウさんからの連絡で、現地で待っていた観光課の人が事前連絡をしてくれていたようで、現在住んでいる警察官の家族の方も協力してくれて内部も見学できた。その後、現在は高校になっている日本軍の野戦病院を見学、渡り廊下で繋がれた建物は広がった。インパール作戦の多くの傷病者がここにいたかと思うと感無量、戦争の悲惨さを想う。

その後マンダレーに戻り、「旧王朝」の移築した建物の彫刻の見事さに感心し、世界遺産である「クドードォ パゴダ」の729の仏塔の中にある經典の石碑に感動した後、マンダレー空港からヤンゴンに向かう。

ヤンゴンの「10マイルレストラン」でニートウェ社長と食事、お土産までいただく。(このピーナッツのおこしは、持ち帰った日本でもおいしいと好評だった。) ここで中島さん親子は空港へ、我々は宿泊先のサミットパークビューホテルに向かう。

7日目(最終日、3月28日) まず竹花さんが洋裁教室を開いているという教会に行く。5日前には活動の場所がないとおっしゃっていた竹花さんの行動力に一同感心。ここで頂いた牛乳が大変おいしかった。

その後、日本人墓地参拝(ここでも般若心経唱和)のあと、郊外の「トンテ孤児院」に行く。子供たちが、食事をせずに我々の到着を待っていた様子。食事開始の「食べさせてあげる」儀式に参加。本堂に集まった袈裟を着た小さな男児100人近くや、食堂に集合のピンクの袈裟を着た尼さんの女兒を含む数百人が、一斉に食事する風景はまさに壮観。現在は「水かけ祭り」で帰っている子も多く、実際は1500人いるという。

その後少し離れた「ドリームトレイン」に行き、ボランティアの斎藤先生の案内のあと、日本からのお土産を贈呈。空港近くの夕食会場「フレンドシップ・レストラン」に向かう。ここで現地で視覚障害者の支援活動「なごみ(和)」を運営している蘆田さんに話を聞き、

その後ヤンゴン空港へ。出国手続きを終え、羽田に向かう。